



福島、東京そして日本の福島第一

「エネルギー・環境問題に関する女性有識者会議」のご紹介

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科
特任教授 遠藤典子

テーマおよびメンバー



子供たちの未来にどのようなエネルギー経済社会を選ぶか

温室効果ガスを出さず、資源を海外に依存せず、安いコストで発電できる、といった万能なエネルギー源はない。経済成長をあきらめない豊かな社会を子供たちの世代に残すために、われわれはどのような選択をすべきか

- (1) 原発事故の放射能被害に対する誤解
- (2) 再生可能エネルギーの可能性と国民負担
- (3) 次世代原子力発電技術と原子力発電所輸出の可能性
- (4) エネルギーミックス(電源構成)の検討

さまざま分野で働く女性であり、母である25名

宇宙飛行士(山崎直子氏)、カーレーサー(井原慶子氏)、企業幹部、アナリスト、ファッション誌編集者など約25名

ラウンドテーブル方式での自由闊達な議論



放射能被害と風評被害



相馬中央病院内科診療医長の越智小枝氏の講演(2015.10.23)

われわれは常に放射線の影響を受ける環境で生活している。福島の人々を苦しめているのは、放射能による被害というよりも、誤解や無知から生まれた風評被害や避難生活からくる健康被害である

<誤解の例①>

- セシウム2000ベクレル/kgのイノシシ肉を、鍋1杯食べる
 - 5.5マイクロシーベルト/時の校庭で2時間遊ぶ
 - 福島から大阪まで飛行機に乗る
- 被曝量はほぼ同等

<誤解の例②>

南相馬市立総合病院とひらた中央病院を受診した約30000人のうち、セシウム137の体内放射エネルギーが50Bq/kgを越えたのは9名 (0.03%)

放射線リスクへの国民的関心と被害の実態への無関心

「風評被害をもたらしているのは、われわれではないのか」